緊急質問 大雨による災害について

６月２日から３日にかけて、台風２号の影響に伴う記録的な大雨により、市内では、浸水や土砂災害等による農作物・家屋などへの被害が発生しました。

市議会では、６月２０日に緊急質問を行い、被害状況や対応状況、今後の支援策などについて、４名の議員が質問しました。

主な質問・答弁は次のとおりです。

緊急質問とは、天変地異、突発的な出来事の発生などに際して行う質問です。一般質問とは別に、議会の同意を得て行うことができます。

緊急質問の録画配信はこちらから

木本朗善 議員

【問】農作物の被害について、緊急の補助事業等による国レベルの支援策が必要な状況とのことだが、農林水産業に関する国への要望は。

【答】大雨による東三河の農業被害からの再建に関し、農林水産大臣宛ての要望書を、近隣９市町村の連名で提出した。被災した農業者が速やかに営農再開できるよう、施設等の復旧に対し総合的な支援を求める内容となっている。

【問】市民などから寄せられた被災者への主な支援状況や市の支援策、今後の防災対策は。

【答】寄附金は、ふるさと納税のポータルサイト、また窓口による2種類の受付方法により、６月19日現在で、全国から１１７件、３９７万９千２６２円の寄附を受け付けている。

ボランティアによる支援は、社会福祉協議会への申し出により、６月16日までに延べ１０６人が、床上浸水した住宅の清掃などで活動いただいた。

市としては、被災者生活再建支援金、保険料等の減免や徴収猶予が適用される制度などを案内している。

今後の防災対策は、今回の災害状況を検証した上で、その結果を地域防災計画をはじめとする各種計画に反映し、見直すべきところを見直していく。

柴田訓成 議員

【問】情報収集で得た情報をどのように活用していくか、またその仕組みづくりは。

【答】今回の水災害における情報収集では、市民からの通報や問い合わせなどに加え、罹災証明書の申請状況等も貴重な情報と考える。被害軽減に向けたハード整備を検討する際に活用し、また、早めの避難行動や食料の備蓄など、災害に備える取り組みを推進し、受け継いでいくための記録として、啓発活動等にも活用していく。

また、市民から寄せられる情報を活用する仕組みは、豊橋市で導入されているＡＩ技術を用いてリアルタイムに収集・分析できるシステム等を参考にしながら、調査・研究していきたい。

佐藤郁恵 議員

【問】ハザードマップ２０２３年版の配布状況と今後の考え方、個別・各家庭の避難計画の策定支援は。

【答】ハザードマップ２０２３年版は、４年度に４万部作成し、５年２月から配布を開始、防災センター受付や市民課等を通じて、５月末までに約１万６千部を配布した。現在、全戸配布は考えていないが、町内会等の配布希望に順次対応し、状況に応じて増刷を検討する方針である。

また、個別・各家庭の避難計画の策定について、個別支援は行っていないが、市作成のパンフレット「防災計画」などを活用し、各家庭において、災害時の避難行動を話し合っていただけるような啓発に力を入れていく。

倉橋英樹 議員

【問】避難所には、さまざまな方が避難されるが、障害のある方など配慮を必要とする方が避難した場合の対応は。

【答】配慮を必要とされる方に対しては、視覚的な刺激などが苦手な方が落ち着きやすい空間を作り出せる仕切りボードや、外国人やろうあの方などとの会話支援のためのコミュニケーション支援ボード、授乳室などを用意し、状況に合わせて必要なものを活用いただける体制を整えている。

現在、市では避難所対策員への研修を毎年実施している。配慮を必要とされる方が避難された時に合理的配慮を行えるように、今後も研修により周知徹底を図っていく。